

真冬の大地震備え

2011.7.18
読友

対策本部設置し机上訓練

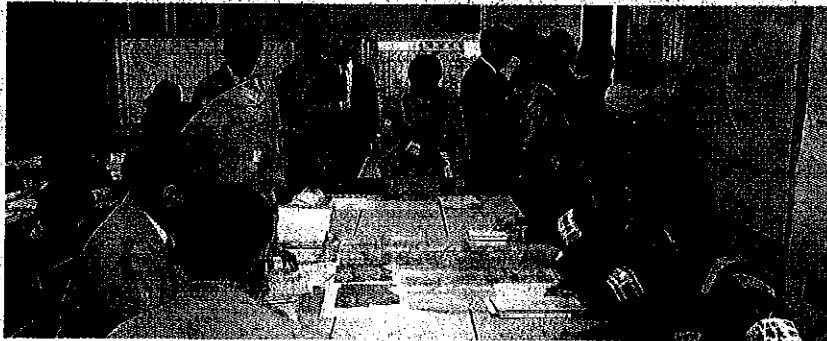
札幌市

札幌市は17日、大規模な地震災害を想定し、本庁舎に市災害対策本部（本部長＝

上田文雄市長）を設置した机上訓練を行った。同本部による訓練は5年ぶり。昨年4

月に運用を開始した「防災支援システム」の検証や、関係機関との連携などに取り組んだ。

訓練には市職員や陸上自衛隊、道警、北海道電力など関係機関の計約250人が参加。真冬にマグニチュード7・3の直下型地震が発生し、市内で凍死も含めて6176人の死者が出たとの想定で行った。



①被害確認や対応を協議する市災害対策本部のメンバーたち
②参加者による意見交換会も開かれた避難所体験

避難所で宿泊体験

豊平区で

札幌市豊平区で、「冬の災害避難所体験」（平岸中の島少年消防クラブ主催）が行われた。冬季に大地震が起き、避難所のガスや電気など暖房が使えない場合を想定して、15、16日の1泊2日で実施した。会場となった同区民センターで、約120人の参加者は各自が持参した寝袋や断熱マットなどで暖をとって酷暑の一夜を明かした。陸上自衛隊によるカレイライスの炊き出しなども行われた。

同区の無職男性（64）は「周囲の音が気になり、なかなか寝付けなかった。仕切りの段ボールを用意するなど被災者自身の準備も大切だと思っ」と話していた。